

新地っ子の夏休み 2011

報告書

宮城県との県境にある沿岸の町、福島県新地町の子ども達 29 人が、夏休みの 5 日間を長野県野尻湖畔で過ごしました。

子ども達にとってその 5 日間がどうであったのか、様々な角度からご報告します。



公益財団法人東京 YWCA

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業





目次

1. ご挨拶	3
2. 実施概要	4
3. 事業の経緯	5
4. 活動報告	6
① チーフリーダーより	
② キャンプ日誌	
5. 評価 ～保護者へのアンケート結果～	17
6. キャンプを終えて	27
7. スタッフ紹介	31
8. ご協力いただいた機関、団体	32
9. 資料	33





ご挨拶

寺出壽美子(プロジェクト長・日本子どもソーシャルワーク協会理事長)

東京も、さざんかの花とともに本格的な冬がやってまいりました。新地町の皆様は、厳寒の中でいかがお過ごしでしょうか。

あの8月の野尻湖畔での29名の子どもたちの地響きにも似たさんざめきが、ついこの間のよう思い出されます。

思い起こせば、東京YWCAの外山さんから新地町の子どもたちに対する野尻湖キャンプの企画を最初に聞いたのは、6月初旬だったと記憶しています。外山さんには教育委員会との折衝やスタッフ会議の開催を進めて頂き、その後は、リーダーの皆さんの限られた時間の中で、キャンプに向けての準備が本当に時間との追いかっこの中で進めていかざるをえなくなりました。

そんな中で、私が大切にしたいと考えていた思いとは、新地町で震災・津波・原発をくぐり抜けての生活を余儀なくされてきた子どもたちに、ほんのわずかな期間であったとしても、自由に駆けまわれる大地と水と大気の中で、震災以来ずっと内部に溜め込んできた、本来もっている子どもらしい子どもとしてのエネルギーを一人ひとりが思い思いの形で噴出させてほしいという願いでした。

すなわち、子どもたちは、本来、日々の生活の中で喜怒哀楽の表出を親や誰かに受けとめられることによって、子ども自身の内部に生きていく礎を根づかせていくことができるようになるわけですが、この震災によって、日常の安全や安心を吹き飛ばされてしまった子どもたちは、さまざまな苦難や辛さを我慢して、大人をおもんばかって大人以上の配慮や気配りで、健気に耐えて来ていました。

このような状況の中での野尻湖キャンプの目的は、一人ひとりの子どもの内部に抑え込んできているさまざまな感情を、友だちと一緒に自然を謳歌することによって、自己癒しのほんの一助にでもなってくれば、という願いです。

実施に際しては、新地町の教育委員会、新地・福田・駒ヶ峰小学校の教職員の皆様、地元の信濃町の皆様、YWCAのスタッフの皆様、上智大学関係者、NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会、共同募金会等々、本当に多くの皆様の熱意とボランティアの力と寄付とによって、無事終わることができました。又、準備不足ゆえのさまざまな不手際やとまどい、ご苦勞を多くの皆様におかけしてしまいましたことをここに深くお詫び申し上げます。そして、このキャンプに携わっていただきました全ての皆様に心より感謝の意を申し上げます。最後に、新地町の子どもたちとご家族の皆様のご健康と日々の生活の回復を心よりお祈り申し上げます。



実施概要

趣旨 地震および津波の被災、加えて原子力発電所による放射能汚染への不安にさらされている福島県の子どもたちが、夏休みの数日間、安心して過ごすことのできる環境で楽しい共同生活を過ごすことにより心と体を癒し、子どもらしい生き生きとした暮らしを取り戻すことへの一助とする。

実施期間 2011年8月19日(木)～23日(火)

実施場所 東京YWCA野尻キャンプ場(長野県野尻湖畔)

参加者 福島県相馬郡新地町の小学生29名

運営に関わった大人31名

主催 公益財団法人東京YWCA

共催 NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会、上智大学コミュニティ心理学研究室

後援 新地町教育委員会

協力団体 名古屋YWCA、日本YWCA、長野県信濃町役場

助成 社会福祉法人中央共同募金会

プログラム内容

	19(金)	20(土)	21(日)	22(月)	23(火)
7:00		起床・朝のつどい	起床・朝のつどい	起床・朝のつどい	起床・朝のつどい
7:30		朝食・デューティ	朝食・デューティ	朝食・デューティ	朝食・デューティ
8:00					
9:00	新地町出発	竜ヶ崎教会のキャンプと交流会	選択プログラム③	選択プログラム⑤	9:15出発
10:00		キャンプ場探検			
11:00			野外料理	的づくり・開会式	
12:00		昼食			
13:00		静かな時間		アーチェリー大会	
14:00		選択プログラム①	静かな時間		
15:00		選択プログラム②	選択プログラム④	シャワータイム	
16:00		シャワータイム	シャワータイム		
17:00	到着・オリエンテーション・女子シャワー				新地町到着
18:00	夕食	夕食	夕食	さよならパーティ	
19:00	シャワー	ナイトハイク	ボンファイアー		
20:00	親睦会・旗づくり		水泳場で星座・エビ	クロージングファイアー	
21:00	お休みなさい	お休みなさい	お休みなさい	お休みなさい	



事業の経過

2011年

- 4月 「日本YWCA被災者支援プロジェクト」が福島県新地町を訪問し、被災状況およびニーズ調査。
- 5月 「日本YWCA被災者支援プロジェクト」の新地町支援開始
- 6月24日(金) 東京YWCA青少年育成事業統括が新地町教育委員会を訪問し、子どもたちの夏休みのプログラムについてニーズの確認、実務連携について確認。
- 6月27日(月) 第1回新地っ子の夏休みプロジェクト
- 7月11日(月) 第2回新地っ子の夏休みプロジェクト
- 7月13日(水) 新地町小学校にて説明会開催
- 7月25日(月) 第3回新地っ子の夏休みプロジェクト
- 7月30日(土) 第1回リーダー会
- 8月16日(火) 第2回リーダー会
- 8月19日(金)～23日(火) 「新地っ子の夏休み」実施
- 9月5日(月) 第4回新地っ子の夏休みプロジェクト
- 9月16日(金) 第3回リーダー会
- 9月22日(木) 参加者保護者にアンケート送付
- 10月5日(水) 新地町役場にて思い出会開催



活動報告

●新地っ子、野尻ではじける！

田宮裕美（チーフリーダー）

東京YWCAでは日本YWCAの東日本大震災支援拠点の一つである福島県新地町の小学校3年生から6年生29人を対象に夏の体験プログラム「新地っ子の夏休み」を8月19日から23日、野尻キャンプ場にて、新地町教育委員会、上智大学コミュニティ心理学研究室、NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会、そして地元信濃町など多くの協力を受けて実施しました。

「部屋の電球が割れちゃった！1階の屋根に登った子もいる！」「ええっっ？」どうしても2日目まで野尻入りできなかった私へ、夜、こんな報告電話が入りました。♪「初めて行くキャンプ、初めて見る湖～」キャンプだホイの歌でいうと新地町の子どもたちはこんな状態で、キャンプ場へ着くなり興奮大爆発、電話のような事件勃発に至ったようです。裏を返せば、それだけ子どもたちのエネルギーがたまっていたということかもしれません。

「野尻ならではの体験を、たくさん楽しんでもらいたい。」そんな願いで、他のキャンプでも大人気の「選択プログラム（水泳・ボート・アーチェリー・自然）」はもちろん、上智大学アーチェリー部から4人の応援があるということで、4日目には全員で「アーチェリー大会」をしようとプログラムを計画しました。

準備段階では、津波を経験した子どもたちに水のプログラムは大丈夫かとの懸念もあったのですが、始まってみるとその不安は大はずれ。参加希望者多数で、何度も何度も飽きずに浮き台から飛び込んでいました。また、自然のプログラムの「森のブランコ」も、梢越しに湖が見えるくらいこいでもらったようで、みんな大満足でした。4日目の午後はアーチェリー大会。グループごとに作った工夫満載、カラフルな的が並びます。競技が始まると、あんなに賑やかだった子どもたちが一転真剣に。それまでの選択プログラムでの練習の成果でしょうか。構えもしっかり安定していて、短期間でこんなに上手になれるのかと驚くくらい、本気の競技大会になりました。そして最後の夜はクロージングファイアー。大泣きをしてみんなとお別れをしました。

今回はYWCA以外の方々とも一緒に進めてきましたが、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。野尻を楽しんでほしいと願ってきましたが、それが少しでも子どもたちに届いていたらうれしいです。



● 日誌

8月19日(金)

《集合、出発》

新地町農村環境改善センター内にて、受付。

同室内にて、出発の挨拶。子どもたちに移動中の注意事項を伝え、バスに乗車。バス内では班ごとに座り、マイクにて自己紹介を行う。自己紹介にとまどう子どももみられたが、全体に賑やかな様子だった。

リーダーの自己紹介あたりから、子どもたちが大騒ぎとなり、子どもたちが自作のメロディーでリーダーの名前を歌う等、多くの子どもが興奮状態になった。一方で、青白い顔をして体調の悪そうな男子や緊張して表情の硬い女子もいた。

《白石蔵王駅にて》

バスで到着後、新幹線の発車まで2時間弱の待ち時間があった。そのため、駅構内の展示スペースを見学後、待合室でお菓子を食べる。男子の多くは駅構内を走り回る。買い物をしたがる子どもも数名いた。リーダーは分散し、子どもたちの様子を見守る。

《新幹線乗車、大宮まで》

初めて新幹線に乗る子どもが多く、プラットフォームでも黄色い線の外に出てしまったり、席では、特に男子が落ち着いて座っていることが難しかった。また、2階建ての新幹線の1階の席だったため、子どもたちからは「景色が見られない、上に行きたい」という声もあがった。

大宮着後も、1時間ほどの待ち時間があり、待合室に荷物を置くと、子どもたちは改札内を動き回っていた。子どもたちが持参していた水筒もすぐに空になったため、長野新幹線に乗車後、リーダーが車内で水を購入し、子どもたちに補充。女子が1名、体調不良の状態となる。

《新幹線乗車、長野まで》

この日、2度目のお菓子の時間。車内では、立ち歩く男子が増える。大声で走り回る男子もみられ、他の乗客に迷惑をかけてしまった。

《バス乗車、野尻キャンプ場に向かう》

子どもたちも疲れが見え始め、バス車内はやや静かになる。

キャンプ地に到着すると、再び子どもたちは興奮し始める。オリエンテーションでは、



自己紹介と新たに加わったリーダーたちの紹介を行う。その後、各部屋に移動し、荷物を降ろすなどする。夕食までの時間、特に男子は興奮し、部屋の内外で走り回る騒ぎがみられた。

子どもたちが枕投げをし、照明器具を一つ、割ってしまう。

A班B班が先にシャワーに入る。夕食後にC班D班E班がシャワーに入る。

《就寝まで》

夕食後の親睦会では、班ごとに班の名前やキャプテンを発表。スタッフが仮装したドビン・フードとユノーミ夫人が登場し、子どもたちは大喜びしていた。また、旗に手形をつけて、旗づくりを行った。21時に各部屋に別れて就寝準備。22時までには、ほとんどの子どもが就寝した。

その後、1階にてリーダー会を行う。体調を崩していた女子の熱が上がり、夜になってから信越病院へ。さらに、長野市民病院へ行き、診察を受ける。深夜に胃腸炎と判明し、深夜3時頃にキャンプ地に帰着。

《リーダー会》

各班から本日の様子をそれぞれ、報告。

- 家に電話をしたいと訴える子ども、孤立しがちな子ども、足の痛みを訴える子ども、元気旺盛な子ども、顔色の悪い子どもなど、さまざまな子どもの様子が見られた。
- 地震や津波、放射線の話をしてきた子どももいた。
- 服薬のある子どもについて、詳細を確認する。
- 明日のスケジュール確認。子どもたちの起床時間と早く起きてしまった子どもへの対応について、朝の集いやデューティー、メインホールでの交流会、選択プログラムについて。
- 選択プログラムについては、この日、子どもたちから要望があったため、外での自由遊びを追加することになる。担当するリーダーを決める。

8月20日(土)

《起床から交流会まで》

5時前に起きる子どもなど、早く起きる子どもが多かった。7時前にメインホール周辺を散歩する子どもたちもいた。雨のため、外での朝の集いはなく、そのまま朝食。班ごとにデューティーを行い、交流会のため、メインホールへ移動。移動の際は、小雨が降って



いたため、カッパを着用。

《交流会、キャンプ場探検》

竜ヶ崎教会の進行のもと、交流会が進む。子どもたちは圧倒されている様子がみられた。また、顔色が優れない、眠そうな様子等の子どももいた。自己紹介や歌、レクリエーション(じゃんけん列車)などが長く、後半は部屋を離れる男子が目立った。1時間ほどで交流会は終了。そのまま、班ごとにキャンプ場の探検へと移る。時間差で、班ごとに地図を持って出発、キャンプ場を見て回る。途中、木にかけられた大きなブランコに、子どもたちは喜んでいた。

《昼食》

昼食後、選択プログラムを開始。食事ではおかわりをする子どもが増える。

体調不良だった女子がプログラムに合流する。昼食後、選択プログラムについて、リーダーから説明があり、子どもたちは選択プログラムの参加希望用紙に記入する。その後、各プログラムの子どもの人数などを見て、リーダーの割り振りを決定。

《選択プログラム》

内容は、水泳、アーチェリー、ボート、クラフト。さらに、子どもたちの要望を受けた「自由遊び」。午後の時間を二つのブロックにわけ、後半からは、ボートのプログラムも入った。午後も天気はぐずつき、雨が降ったりやんだりの状態。

水泳は、10名弱が参加。津波の影響から選ぶ子どもが少ないかと思われたが、そうでもなかった。箱メガネや大きなビート板など、思い思いに遊ぶ。水位は低く、雨が強くなったため、早めに切り上げる。シャワーは男子を先に入れ、次に女子。

アーチェリーは、15名ほどが参加。子どもたちは道具の使い方など、戸惑う場面も様子もあったが、皆、一生懸命に覚えようとしており、緊張した面持ちで矢を射っていた。

ボートは、3分間テストの合格者が2名。内、1名がボートを行い、黙々と漕いでいた。

クラフトは、小枝や松ぼっくり、毛糸等を使って工作。女子が圧倒的に多く、和やかな雰囲気だった。

自由遊びは、男子6名が参加。最初に室内で、寝そべりじゃんけん、ハンカチ落とし等を行い、その後、外で色鬼、缶けり、しっぽ取り等を行った。元気に走り回っていた。

《シャワー、夕食》

柱に張られた時間割りを見て、各班がシャワーに入り、夕食。その間、子どもたちは自室でトランプやUNO、人生ゲームなどをしていた。他の部屋に行ってちょっかいを出す



子どもや、押し入れに入って遊ぶ子ども、階段でグリコをする子どもなどもいた。夕食では、子ども同士の会話や遊ぶ姿が目立つようになる。

《ナイトハイク》

小雨が降っていたが、全員、カッパを着てナイトハイクに参加。班ごとにゆかりハウスを出る。雨のため足元が滑りやすく、足を取られやすかった。ゴールの野尻湖についた後は、エビ釣りを二人一組で行う。子どもたちは泥だらけになりながら、盛り上がっていた。

《リーダー会》

寝ていない子どもを確認しつつ、22時過ぎから開始。

- 家に帰りたいたいと訴える子ども、寝つけないと訴えてくる子ども、物を失くしたと訴えてくる子ども、けんかで泣く子ども、甘えたがる子ども、小さなケガを訴える子どももいたが、皆、よく食べよく眠り、初日、みんなの輪に入れなかった子どもも元気になり、すっかり班に馴染んできた。特に、選択プログラムが同じだった子ども同士で班の中で交流が活発になった。
- 各選択プログラムの報告と交流会についての反省。明日についての確認。朝の集いの体操の役割、調理の進め方など確認。また、選択プログラムでは、クラフトの内容、雨の場合の水泳について検討。早く起きた子どもたちは眠っている子どもを起こさないように、カフマンハウスへ誘導することになる。

8月21日(日)

《起床、朝食前後》

7時ギリギリまで寝ている子どもが増えた。特に男子。朝から小雨がパラつくものの、朝の集いを外で行い、旗揚げや体操を行う。朝食後に選択プログラムを申込み。

《選択プログラム》

水泳は、雨の中ではあったが9名が参加。水泳を楽しんでいた。水温は高かったが早めに切り上げ、シャワーは2か所を使って、男女同時に入る。

アーチェリーは、2日目ということもあり、皆、上手になっていた。

火おこしは男子が10名弱の参加。集中して頑張っていた。火を起こせる子どもも多く、盛り上がった。

自然は、ブランコやハンモックなどを楽しむ。女子もとても喜んでいた。

クラフトは、昨日に続いて、松ぼっくりなどを使って工作。いくつも作る子どもがいた。



《野外料理》

全員に野菜を切ること、飯盒の準備についてなど、流れを説明。その後、各班で作業を行った。作業に関してリーダー自身が質問がある時には、全てチーフリーダーに質問することで混乱を避ける。小雨が降っていたが外で飯盒もでき、食事も食べることができた。飯盒炊飯では、子どもたちが興味深く火を眺めていた。何度もおかわりをする子どもがたくさんいた。バナナチョコも喜んで食べていた。

《選択プログラム》

午後水泳、アーチェリー、自然、クラフトを行う。同じ選択プログラムを繰り返し選ぶ子どもも多い。

水泳は、10名ほどが参加。飛び込みなど、大声を出しながら楽しそうに何度も繰り返していた。

アーチェリーは、大会に向けて、やっていない子どもはやるように促すも、ほとんど同じメンバーが参加。毎回、女子も含めて10名以上が参加している。

自然は、5、6名の参加。女子が多く、ブランコやハンモックを楽しんでいた。

クラフトでは、プラ板づくりを行い、葉っぱを模写して、いくつも作る子どもが見られた。最終日もこれを首からぶら下げて帰る子どもが多く、良い記念になった様子。

《あいだの時間》

自室で過ごす子ども、他の班へ行って遊ぶ子どもなど、少しずつ落ち着きだす。一緒に過ごす子どもたちも固定し始めた。また、班でまとまって遊ぶ姿(UNOや人生ゲーム)や、班を超えてみんなでかくれんぼをして過ごす場面もあった。その他、男子が女子にちょっかいを出し(部屋を叩く、ドアを叩く等)、揉めてしまうことがあった。

一方、初日からあまり変わらず、汗をかきながら走り回っている子ども、リーダーを叩く男子もみられた。

《ボン・ファイヤー中止》

夕方、雨天のため、外でのボン・ファイヤーが難しい状況となり、急きょ、室内で過ごすことに。昨夜からその可能性も考慮していたが、慌ただししい準備となる。

室内では、リーダー3人が中心となって会を進める。再び、スタッフの仮装したドビン・フッドとユノーミ夫人も登場。最初に歌を歌った後に、班ごとに全員が新聞紙の上に立ち、○×で答え、負けると新聞紙は半分に畳まれてしまう。小さくなっていく新聞紙に班全員がいつまで乗ってられるかというゲームをする。次に、猛獣狩りゲームをする。リーダ



一3人はゴリラを演じ、子ども数名もゴリラとなって盛り上がった。今まで、おとなしかった女子も違う表情や動きを見せ、楽しんでいた。

盛り上がった一方で、その騒ぎ声などが苦手な子どももいて、部屋を出たり入ったりしたり、吹き抜けの2階バルコニーから階下の盛り上がりを見ている子どももいた。

《就寝前後》

興奮していたこともあり、やや寝付くまで時間がかかった。子どもたちは毎食後歯磨きなどを行っていた。

《リーダー会》

本日は、寝付かない子が数名いた。

- ・就寝時に目の痛みを訴えてくる子ども、ちょっとしたケガを訴えてくる子ども、また、ケンカが多くなってきたが、一方で、班全体として少しずつまとまりが出てきており、班の子どもだけで遊ぶ場面もみられた。また、普段の生活での苦労や悩みを打ち明ける子ども、津波や地震、放射線の話をしてくる子ども、入浴の際に「野尻にもっといたい、福島は嫌い」と訴えてくる子どもも出てくる。
- ・明日の日程確認。着てきた時のシャツの洗濯について。子どもたちの体調と起床時間について検討。ギリギリまで寝かせることに努める。

8月22日(月)

《起床・アーチェリー準備》

日が差した清々しい朝。こちらに来て一番の天気。それでも晴れ間から雨がチラホラ降っていた。この日も多くの子どもが7時ごろに起床。ゆかりハウスの前で朝の集いを行う。YWCAのシャツを洗濯に出す。

デューティー後、アーチェリー大会の準備として、的を作成する。班ごとにまとまって、的になる大きな画用紙に絵を描く。このころには班ごとの個性もはっきりとしてきて、画用紙に描かれた絵には個性がよく出ていた。さらに、松ぼっくりをペイントし、松ぼっくり転がしの準備も行う。

《選択プログラム》

アーチェリーは、いつもの子どもたちが参加。最終的には9名が一度もやらないままだった。

水泳は、6名が参加。初めて参加した女子も寒さに負けず、飛び込みをしていた。参加



する子どもがほとんど固定していたので、リーダーも子どもたちをみるのが楽しかった。

自然は昨日に続き、ハンモックやブランコを行った。さらに、目を使わない体験を行うなど、子どもたちは新鮮な体験をしていた。

クラフトは、男子たちが多く参加し、プラ板づくりに夢中だった。

《アーチェリー大会》

ドビン・フッドとユノーミ夫人も参加。最初に、上智大学のアーチェリー部4名のデモンストレーションを行う。子どもたちはとても驚き、魅了されていた。大会では、部の4名が点数チェックなどを行い、スムーズに進んだ。

次に、一つ上のグラウンドから松ぼっくり投げを行った。皆、初めてではあったが、班ごとの対抗意識もあって、とても盛り上がった。

数名の子どもは、ゆかりハウス内で絵を描いたり、ゲームをして過ごした。

《クロージングファイヤー》

小雨が降っていたが、無事に行うことができた。子どもたちは、ろうそくの幻想的な雰囲気ですっかり魅了されていた。最初に6年生4名が言葉を述べて、薪に火をつけた。歌を唄うなどした後、A班から順番に1人1人キャンプの感想を言い、全員と握手をしてゆかりハウスへ戻っていった。多くの子どもが泣いていた。

《リーダー会》

- ・最終日ということもあって、子どもたちの疲労がピークになり、トラブルが起きたり、小さなケガが多く見られた。リーダーに甘えてくる子どもも増え、中には、「ひとりで静かな時間を過ごしたい」と訴えてくる子どもも出てきた。一方で、お互いを気遣う様子も見られるようになった。クロージングファイヤーでは、多くの子ども達が泣いていた。「(キャンプ場に)まだいたい」と訴える子どもたちも出てきた。

- ・明日についての確認。朝の流れ(ベッドの片づけ、荷物の出し方、出発まで班ごとに過ごすこと、トイレと酔い止めの声掛け)、子どもたちの水筒の水がなくなった時の対応等、細かく決める。その他、新幹線やバス内での過ごし方、待ち時間についても打ち合わせ。

《キャンプの振り返り》

○アーチェリー・水泳のリーダーより…何か支援したかったので、関わってよかった。子ども達に元気をもらった。何人かはアーチェリーや水泳に何度も参加した。子どもと会う機会が少ないため子どもの名前を覚えられず、声掛けなどが、なかなかできなかった。津波の影響からプールを控える子が多いかと思っただ、皆楽しんだ。



○チーフリーダーより…初日は子どもたちが話も聞かず、騒いでうるさかったので、どうなることかと思った。これが震災の影響なのか?とも考えた。また、チーフリーダーが途中で交代するというのも初めてだったので、リーダーの方にもいろいろと不安があった。プログラムでは、野尻ならではの体験をしてもらおうと構成した。今回は使用できなかったが、この元気な子ども達であれば、メインホール側のキャンプ場の方が合っていた。

○カメラマンより…子ども達は元気過ぎと言いたいほどパワフルだった。

○各リーダーより

- これまでは「ダメ」と言わないキャンプをしてきた。子どもがぶつかってくるなら、体全体で受けとめようと考えた。3~4日でようやく関わり方の感覚がわかってきた。
- 子どものキャンプは初めてだった。震災後の子どもたちへの関わり方をどうするのか手探りだった。
- このキャンプで何とか発散し、はしゃいでほしいと思った。しかし、一方では、子どもへの関わり方で悩んだ。発散だからすべて許されるのか。
- 子どもが物にあたりたり、話し込んで来たり、子どもなりに発散していたのではないかな。子どもたちの震災の影響は、今後、出てくるのではないかな?
- 発散し忘れていた子どもを発散させることができたのか。泣く子や叫ぶ子、全て発散の形なのでは。こちら甘えさせようと接した。子どもから「一日が早すぎる」との発言もあった。
- どこまで注意してよいのか、悩んだ。また、リーダーに一人になる静かな時間が必要だった。リーダーによっては水泳のプログラムが午前午後と続き、かなり疲れた。
- 困っている子どもに、リーダーがすぐに手を貸していたりしたが、子どもたちが自分で解決できるように、もう少し待ってもよかったのではないかな。

○責任者、YWCA より…子どもたちの人数や様子を振り返るとハード面で、メインホールの方が良かったかもしれない。トイレが同じ建物内にあるかどうか、広いホールがあるかどうか、ガラスがあるかどうか等、条件が違う。今回はすでにメインホールは予約が入っていて、使用ができなかった。同様に、他のキャンプ施設利用者との兼ね合いで、プログラムがキツキツになってしまった。

ソフト面では、子どもたちに対してリーダーの数が少なかった。また、キャンプ中を通してずっといられるリーダーも少なかった。

子どもは震災を体験し、このキャンプでは感情が大きく出た。あとは感情のおさめ方が



大切になる。キャンプから帰宅し、2日後には学校が始まる。明日帰着した際に、保護者に子どもたちの話をじっくり聞いてあげたり、ゆっくりさせてあげるように伝える必要があるのではないか。

キャンプの前に、子どもたちにどう関わるのか、などの事前準備が不十分だった。あとは明日、子どもたちを事故やケガなく、安全に送り届けることが大事。

《検討事項》

明日、各リーダーが子どもたちから受けると予想される質問に対して：

「来年はキャンプをするの？」…「今はまだわからない。考えてみるね」

「電話番号を教えてほしい」…「電話番号は難しいけれど、手紙をYWCA宛てに送ってくれれば届くよ」

8月23日(月)

《起床から準備まで》

起床後、荷物の整理、ベッドの片づけ、朝食とあわただしく時間が過ぎる。デューティー話。8時30分ごろから各班は自室にて、9時ごろまで振り返りの時間を過ごす。

《振り返りの時間と出発》

各班の部屋では、リーダーから子ども一人一人に言葉をかける等、振り返りの時間を過ごす。その後、1階のホールにてお別れの挨拶を行い、外で集合写真を撮る。リーダーの多くは長野駅までバスと一緒に移動。多くの子どもが名残惜しそうにしていた。

《移動中》

乗車後にバスや新幹線内での過ごし方について、子どもたちに話をする。バス内では騒いでも大丈夫だが、新幹線では他の乗客の迷惑を考えて騒がないように伝える。また、バス内でのシートベルトについても確認。バスの中は思いのほか、静かであった。

長野駅でお土産を買う時間を設ける。子どもたちは熱心に買い物をしていた。その後、各リーダーとお別れし、新幹線に乗車。長野新幹線に乗った時点で昼食を配り、自由に食べ始める。また、お菓子についても自由に食べていた。

大宮駅でもお土産を買う時間を設ける。お土産や自分で食べるアイスやジュースを買う子どもなど、様々。大宮駅では待ち時間が長く、初日と同様に時間を持て余す子どもが多かったが、初日と比べて遊び回ったり、動き回る子どもは少なく、落ち着いていた。自動販売機の下からお金を拾って、駅員に渡したり募金箱に入れている子どももいた。



東北新幹線に乗ると、初日と同じように席を立て動き回る子どももいた。

《新地町まで》

白石蔵王駅に着くと、売店で本日3度目のお土産を買う時間を設ける。その後、バスに乗車。疲れて眠っている子ども、興奮して地震の時の様子を話す子どもなど、さまざまだった。予定よりも1時間ほど早く新地町に到着したが、すでに保護者らがお迎えに来ていた。

《解散》

初日と同様にセンター内に集まり、解散の挨拶をする。キャンプ中のスケジュールやアーチェリー大会の的、クラフトでの制作物などを展示し、保護者にわかるようにキャンプ中の様子を報告。子どもたちと一緒にキャンプを振り返る。その後、子どもたちにリーダーに連絡を取りたいときには、YWCAに手紙を送ってほしいことを伝え、保護者には子どもが話すキャンプ中の話をしっかりと聞いてあげてほしいこと、今日明日はゆっくりと休ませてあげてほしいことを伝える。



評価

●保護者へのアンケート

参加者 29 名に発送、回収 24 名。回収率 82.8%。アンケート用紙は 35 ページ参照。

性別	人数
男子	16
女子	8
計	24

回答者	人数
父	4
母	20
計	24

学校名	人数
新地小	6
福田小	7
駒ヶ峰小	11
計	24

学年	人数
3年生	8
4年生	9
5年生	5
6年生	2
計	24

Q1. 今年のキャンプの泊数(4泊5日)についてどう思われますか？

キャンプの日数	人数
適切	15
短すぎる	8
長すぎる	1
計	24

Q2. 開催時期についてはどう思われますか？

開催時期	人数
今回で良い	0
8月上旬	16
8月中旬	2
いつでも	6
計	24



Q3. キャンプ地までの移動についてお答えください。

移動手段	人数
今回と同じ	23
バス	0
その他	1
計	24

Q4. キャンプ中の食事は全体として
いかがでしたか？

食事	人数
おいしかった	22
ふつう	2
おいしくなかった	0
計	24

Q5. キャンプリーダー（若いお兄さんやお姉さん）の対応はどうでしたか？

リーダーの対応	人数
とても良かった	19
良かった	5
ふつう	0
あまり良くなかった	0
計	24

Q6. 今回のキャンプにお子様を参加させようと思った理由は、次のどれですか？
当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

参加理由(複数回答)	数
のびのび	16
自然	19
気分転換	19
他校の子どもと友達に	10
たくましく	11
協調性	16
ストレス発散	14
規則正しい生活	5
その他	1



Q7. 次の中で楽しかったものはどれですか？当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

楽しかったこと(複数回答)	数
旗づくり	6
竜ヶ崎教会	2
ナイトハイク	16
水遊び	11
ボート	1
アーチェリー	20
クラフト	10
火おこし	7
散歩やブランコ	10
野外料理	16
室内ゲーム	15
キャンプファイヤー	12
バスの中	10
新幹線の中	17
食事中的おしゃべり	9
部屋でのおしゃべり	18
休憩時間での自由遊び	16
お風呂タイム	7
その他(お絵かき・ハリーとのお話)	1

Q11. もし来年の夏、小学生や中学生を対象とした Q12. 2学期の様子

今回のようなキャンプがあったら、またお子様を参加させようと思いますか？

来年の参加希望	人数
ぜひ参加させたい	19
できれば参加させたい	3
その時にならないとわからない	1
参加させたくない	0
無回答	1
計	24

2学期の様子	人数
特に心配はない	22
少し心配なことがある	1
無回答	1
計	24



ID番号	リーダーに伝えたいこと
1	
2	
3	キャンプはとても楽しかったです、また一緒に遊びたいです。ありがとうございました。
4	
5	楽しい思い出をいっぱいありがとうございました。
6	
7	直接手紙を書いたのでいいそうです。(^_^) 元気かなーと心配はしておりました。
8	お世話になりました。またいきたいです。
9	
10	
11	お世話になりました。みなさんの話をとてもうれしそうに話してくれます。別れがとても悲しかったそうです。愛情を持って接して下さい、ありがとうございました。
12	楽しかったです。また行きたいです。
13	色々なお話をしてくれたり、お世話をしてくれてありがとうございました。
14	大変お世話になりました。とても楽しいキャンプをありがとうございました。とても楽しかったのですが、お迎えに行った時、泣き出していました(娘)。さみしかったのではなく、持ち物におこづかいは書いてなかったので、私はおこづかいを持たせませんでした。しかし他の子供たちはおこづかいを当日許可され持参したそうで、おみやげ品を買っていたそうです。娘もおみやげを買いたかったそうで、それがとても残念でしばらく泣いていました。持参品は統一してほしかったと、私も残念でした。
15	
16	
17	いつもみんなの事を考えてくれてありがとうございます。
18	4日間とてもおもしろかったです
19	とても優しいお兄さん、お姉さんで、本当の家族のように接して頂いて、子供は安心した、と言っておりました。ありがとうございました。
20	たくさん一緒に遊んでもらってありがとうございました。
21	子供たちのうるささやわがままに付き合い、大変だったと思います。大変お世話になりました。
22	とても楽しかったです、もっともっといっしょに遊びたかった、また参加したいです、とのことです。
23	
24	みなさんお元気ですか？またこういうきかいがあったらまたいっしょに遊ぼうね♪